

Title	唱歌集の中の外国曲：『小学校唱歌集』を中心として (2)
Author(s)	櫻井，雅人
Citation	言語文化，42：3-13
Issue Date	2005-12-25
Type	Departmental Bulletin Paper
Text Version	publisher
URL	<a href="http://doi.org/10.15057/15504">http://doi.org/10.15057/15504</a>
Right	

# 唱歌集の中の外国曲

## ——『小学唱歌集』を中心として (2)

櫻井雅人

本稿は「唱歌集の中の外国曲——『小学唱歌集』を中心として (1)」(『言語文化』第41巻, 2004, pp. 3-17)の続編である。ただし、スコットランド曲<sup>(1)</sup>および未確認の曲、日本人の作品は除いた。

### 3. 『第二編』収録曲の原曲

#### 第34「鳥の声」

“Winter, Adieu!”<sup>(2)</sup>で、田村虎蔵編『中学唱歌』<sup>(3)</sup>にも収録された。“Hold Fast to Truth”の歌詞もある<sup>(4)</sup>。原曲はドイツの“Winter, ade!”<sup>(5)</sup>または“Schätzchen, ade!” (あるいは“Liebchen, ade!”)<sup>(6)</sup>である。

#### 第35「霞か雲か」

“Spring-Song” (“All the birds are come again”)<sup>(7)</sup>で、元はドイツの“Alle Vögel sind schon da”である<sup>(8)</sup>。“All the Birds Are Here Again”の歌詞もある<sup>(9)</sup>。戦後版の「かすみか雲か」<sup>(10)</sup>は勝承夫が作詞しなおした。「春が来た」, 「春のおどり」, 「春の訪れ」, 「恋人との別れ」, 「小鳥は来たよ」<sup>(11)</sup>などもある。

#### 第36「年たつけさ」

スイスのウステリ作詞 (Martin Usteri, 1793), ネーゲリ作曲 (Hans Georg Nägeli, 1795) の“Freut euch des Lebens”である<sup>(12)</sup>。英語版“Life Let Us Cherish”の楽譜<sup>(13)</sup>は1800年前後以降に出版され、歌集<sup>(14)</sup>にも載った。“Snatch Fleeting Pleasures”<sup>(15)</sup>の歌詞もある。「夕べに想う」, 「楽しめよ」<sup>(16)</sup>などの日本語歌詞がある。

「年たつけさ」は『ナショナル・ミュージック・チャート』<sup>(17)</sup>の“The Rising Sun”（歌詞2連）が出典で、元は“Sunrise”という題であった<sup>(18)</sup>。歌詞（“See where the rising sun”）は宗教的ではないが、賛美歌集<sup>(19)</sup>にもある。明治時代の英語歌集<sup>(20)</sup>に“See Where the Rising Sun”と“Life Let Us Cherish”の両方が収録された。賛美歌“What Shall We Render”（作詞 E. Parson, 1840）の曲<sup>(21)</sup>でもあり、日本では「なにをかささげん」（『日曜学校讃美歌』1928）となった<sup>(22)</sup>。

### 第37「かすめる空」

“The Rain”（歌詞3連；作曲者 Schade）である<sup>(23)</sup>。

### 第40「岩もる水」

“The Moon”（2声部、歌詞3連；作曲者 J. Merling）である<sup>(24)</sup>。

### 第41「岸の桜」

ベラー（Frédéric Bérat, 1801-1855）が作詞作曲したフランス語の“Ma Normandie”（歌詞“Quand tout renaît à l'espérance,” 1835 (?)）で、英語版は“My Normandy”としてシートミュージック<sup>(25)</sup>が出版され、歌集<sup>(26)</sup>にも収録された。ジャージー島（英国王室直轄地チャンネル諸島）の代表的な歌である。「岸の桜」では終わりから2小節目の旋律が簡略化されている。

### 第42「遊獵」

イングランド民謡の“The Lincolnshire Poacher”である。19世紀の英米で楽譜やブロードサイド・バラッド<sup>(27)</sup>がいくつも出版された。ベンジャミン・ブリテンは自身の編曲作品への注で「あらためて紹介する必要もない」ほどよく知られている<sup>(28)</sup>と言う。「もとはドイツ民謡」の「矢車菊」<sup>(29)</sup>との説は疑わしい。

音楽取調掛から東京師範学校宛の「借用の目録」（明治14年10月13日付）<sup>(30)</sup>に記載のある「ハラー唱和集 Hullah Song book」が出典であろう<sup>(31)</sup>。ハラー版はチャペルの『昔の民衆音楽』<sup>(32)</sup>からの転載で、ヨークでの印刷版（1776）が初出である<sup>(33)</sup>。

### 第45「栄（さか）行く御代」

『讃美歌』「神の御子は今宵しも」の曲（Adeste Fideles）である。1743年頃ウェイド（John Francis Wade）が作曲したという説が強い<sup>(34)</sup>。“Portuguese Hymn”の曲

名であったために伊沢修二は「楽譜ハ葡萄牙ニ出ヅ」<sup>(35)</sup>と言うが、ポルトガルの曲ではない。多くの賛美歌集等に収録された<sup>(36)</sup>。

#### 第48「太平の曲」

ドイツ系アメリカ人マサイアス・ケラー (Matthias Keller, 1813-75) が作詞作曲した“The American Hymn” (1866) で、シートミュージック<sup>(37)</sup>も出版された。“Keller’s American Hymn”とも言う。ホームズ (Oliver Wendell Holmes) は“Angel of Peace”と題する歌詞を書いた。これら2曲は『フランクリン・スクウェア・ソング・コレクション第4集』<sup>(38)</sup>にある。伊沢は「太平曲 此曲ハ千八百七十二年合衆国ニ於イテ万国太平協会ヲ開キタル時米人ケラル氏ノ太平ノ精魂ヲ頌シ作レルモノニシテ原歌ハ有名ナルドクトル、ホルムス氏ノ作ニ出ヅ。其意ハ太平ノ氣ヲシテ長ク国家ヲ保護セン事ヲ祈ルナリ」<sup>(39)</sup>と言う。「万国太平協会」とは The World’s Peace Jubilee (1872) で、岩倉使節団が出席した「太平楽会」である<sup>(40)</sup>。ホームズの歌詞は National Peace Jubilee (1869) の際に書かれた<sup>(41)</sup>もので、伊沢は2つを取り違えている。日本での英文プログラム<sup>(42)</sup>には“Angel of Peace”と記された。ブラスバンド演奏の“American Hymn”がCD<sup>(43)</sup>にある。日本では『教会讃美歌』(聖文社, 1974)「みさかえとちからとは」の曲にも採用された。

#### 第49「みてらの鐘の音 (ね)」

“Hark! The Distant Clock”である<sup>(44)</sup>。

### 4. 『第三編』収録曲の原曲

#### 第51「春の夜」

ハリソン (Annie Fortescue Harrison, d. 1944) 作曲、オレッド (Meta Orred, d. 1954) 作詞の“In the Gloaming”で、オレッドの詩集 (*Poems*, 1874, p. 134) に掲載され、シートミュージックが1877年にロンドンで<sup>(45)</sup>、翌年アメリカでも出版された<sup>(46)</sup>。“Bonnie Hills of Heather”<sup>(47)</sup>という歌詞もある。『唱歌掛図』の歌詞1番「雲間に月の影見えて」は削除された。

#### 第54「雲」

コールコット<sup>(48)</sup>作曲の“The Might with the Right” (ト長調, 歌詞3連, 3声部)<sup>(49)</sup>

で、原曲では「見る間に変わりて」の部分を低音部がフーガのように合唱で歌う。もとは“To All You Ladies Now at Land”の歌詞に作曲したグリーのような<sup>(50)</sup>、“That Day the World Shall See”<sup>(51)</sup>、“The Mariners”<sup>(52)</sup>の歌詞も作られた。

#### 第57「母のおもい」

アイルランド系のサミュエル・ラヴァー (Samuel Lover, 1797-1868) 作の“My Mother Dear”で、1839年ころ<sup>(53)</sup>にはアメリカでも出版されて、歌集<sup>(54)</sup>にも収録された。日本の英語歌集<sup>(55)</sup>にも載った。

#### 第70「船子」

E・O・ライト (E.O. Lyte, 1842-1913) の“Row Your Boat” (一般には“Row, Row, Row Your Boat”の題)で、『フランクリン・スクウェア・ソング・コレクション第1集』(1881)が初出文献である<sup>(56)</sup>。ただし、歌詞は1850年代の歌<sup>(57)</sup>の折り返しを利用した。

#### 第73「誠は人の道」

モーツァルトの『魔笛』(*Die Zauberflöte*, 1791) のアリア「恋人か女房があればいいが」(“Ein Mädchen oder Weibchen”)から初めの8小節を借用した“Üb immer Treu und Redlichkeit”<sup>(58)</sup>である。英語版“Truth and Honesty”<sup>(59)</sup>から採られた(調性・編曲がほぼ同じ)。

#### 第75「春の野」

“Arrival of Spring” (変イ長調, 2声部, 歌詞4連)<sup>(60)</sup>で、歌詞も翻案である。

#### 第76「瑞穂」

“(The) Evening Twilight” (歌詞4連)<sup>(61)</sup>である。

#### 第77「楽しわれ」

『青少年歌唱学校』<sup>(62)</sup>の“Evening Song” (3声部)で、『新第2ミュージック・リーダー』<sup>(63)</sup>とは調性・編曲も同じである。歌詞は翻案である。

## 第78「菊」

「庭の千草」である。出典は『フランクリン・スクウェア・ソング・コレクション第1集』<sup>(64)</sup>の“The Last Rose of Summer”で、装飾音符を削除して、4部合唱を2部に簡略化した。メイソンの版<sup>(65)</sup>は編曲がやや違う。いずれもトマス・ムーアの原典版<sup>(66)</sup>ではない。ムーアは“The Groves of Blarney” (1806)の曲に手を加えたと言う<sup>(67)</sup>が、先行曲には“The Young Man[']s Dream”などもある<sup>(68)</sup>。バンティング『古代アイルランドの音楽』の収録曲から<sup>(69)</sup>との説は誤りである。

ブラウン編『Uta to Fuçi (宇太登不止)』(1876, pp. 85-86)にST. DENIS (“Ware-rano tamenito Yesuwa”)という賛美歌版が掲載された<sup>(70)</sup>。この曲名は『ボストン・ヘンデル・ハイドン協会教会音楽集』<sup>(71)</sup>などに見られる。唱歌では「共に学びし」、「はながたみ」という歌詞もある<sup>(72)</sup>。

## 第79「忠臣」

元歌は“Juanita”であり、『フランクリン・スクウェア・ソング・コレクション第2集』<sup>(73)</sup>の版(4部合唱)とは上2声部の編曲がほぼ同じである。

“Spanish ballad,” “Spanish melody”などと記されてきた。1855年出版のシートミュージック<sup>(74)</sup>には“A Song of Spain”との副題がある。ところが、ジェイムズ・ファルドによると<sup>(75)</sup>、ノートン夫人 (Caroline Elizabeth Sarah Norton, 1808-1877) がヘンデルの「涙の流れるままに」 (“Lascia ch'io pianga,” 1711)<sup>(76)</sup>を下敷きにして作った歌で、自身の *Songs of Affection* (1853) に収めた。「歌詞と曲にスペインという異国趣味を少々加えた明らかにイングランドの歌」<sup>(77)</sup>と言われる。スペイン語歌詞は1930年にウルグアイの学生が英語から訳した<sup>(78)</sup>。

賛美歌の「聖子降誕 嗚呼あまねし」<sup>(79)</sup>となり、『賛美歌第二編』140番「ながき道ひとりあるきて」でもある。

## 第80「千草の花」

“Autumn Song” (歌詞2連)<sup>(80)</sup>で、調性・編曲も同じである。

## 第83「さけ花よ」

“Delights of Spring” (歌詞5連, 4声部)<sup>(81)</sup>で、作曲者はFr. Silcher。歌詞は英語版を参考にした。

#### 第 84 「高嶺」

『讃美歌』58 番「かみよ、みまえに」、544 番「あまつみたみも」および『讃美歌 21』29 番「天のみ民も」の曲 HENDON で、明治時代から歌われてきた。英語圏では “Ask Ye What Great Thing I Know” (1863); “Take My Life and Let It Be” (1874) などがある。フランス系スイス人のマラン (H.A. Cesar Malan, 1787-1864) が 1823 年または 1827 年に作曲したもので、ローエル・メイソンが『カルミーナ・サクラ (*Carmina Sacra*)』(1841) に編曲版を収録した<sup>(82)</sup>。

#### 第 85 「四 (よつ) の時」

原曲は “Fading, Still Fading” で、19 世紀のアメリカで流行った<sup>(83)</sup> という。イーノス・E・ダウニング讃美歌コレクションには収録の讃美歌集が 6 点あり<sup>(84)</sup>、一般向けの歌集にも載っている<sup>(85)</sup>。シートミュージックでは “Fading Still Fading, The Last Beam Is Shining. An Evening Hymn,” Composed By T.V. Wiesenthal, M.D. (Baltimore: John Cole, 1826) がもっとも古い<sup>(86)</sup>。「ポルトガル曲」説もあるが、作曲者は T.V. (時として F.V.) Wiesenthal が通説である。

#### 第 86 「花月 (かげつ)」

マッケイ (Margaret Mackay, 1802-87) 作詞 (1832), ブラッドベリー (William B. Bradbury, 1816-68) 作曲 (1843) の “Asleep in Jesus! Blessed Sleep” (曲名 REST) である<sup>(87)</sup>。ブラッドベリー自身の讃美歌集<sup>(88)</sup> の歌詞は 3 連である。現在の英米ではほとんど見かけないが<sup>(89)</sup>、日本では明治時代の『讃美歌』(1903)「エス君にありて」から『讃美歌 21』「眠れ、主にありて」にいたるまで歌い継がれてきた。

#### 第 87 「治 (おさま) る御代」

『ナショナル・ミュージック・チャート』<sup>(90)</sup> の “As the Dewy Shades” (作曲者名 R. P. Lambillotte) である。『聖バジル讃美歌集』<sup>(91)</sup> に曲が異なる “As the Dewy Shades of Even” (歌詞 3 連) がある。ジュリアン『讃美歌学辞典』<sup>(92)</sup> は、H. Formby, *Catholic Hymns* (1853) などに掲載という (作詞者不明)。ワッソン『讃美歌曲目索引』<sup>(93)</sup> によると、「治まる御代」の曲はベルギーのランビヨット (Louis Lambillotte, 1796-1855) の作曲で *Catholic Youth's Hymn Book* (1871) に収録された。

## 第88「祝へ吾君を」

“Song of the Fatherland” (歌詞2連, ト長調)<sup>(94)</sup>である。

## 第89「花鳥 (はなとり)」

ウェルナーの「野ばら」である。「野ばら」には多くの作品があり、坂西八郎が集大成している<sup>(95)</sup>。「ドイツ版の唱歌集が種本」<sup>(96)</sup>とも言われるが、『ナショナル・ミュージック・チャート』<sup>(97)</sup>の英語版“The Wild Rose”が出典である(ト長調で3声部の編曲もほぼ同じ)。メイソンは『新第4ミュージック・リーダー』<sup>(98)</sup>にも“The Sweet-Briar Rose”(違う編曲)を載せている。

## 註

1. 拙稿『『小学唱歌集』のスコットランド曲』(CALEDONIA, No. 33, 日本カレドニア学会, 2005, pp. 1-8) 参照。
2. Luther Whiting Mason, *Primary or First Music Reader*, p. 11; *National Music Charts*, 1st ser., p. 11.
3. 田村虎蔵編『教科統合中学唱歌第1巻』(東京音楽書院, 1910; 修正3版, 1911), 巻末(英語唱歌) p. (10) [近代デジタルライブラリー]。
4. Lowell Mason, *Song-Garden*, 2nd bk, p. 66.
5. *Kinderlieder* (Reclam, 1974), p. 54; *Deutsche Volkslieder* (Reclam, 1972), p. 50. 後者の注に“Worte: H. Hoffmann v. Fallersleben, 1798-1874—Weise: Frankisches Volkslied, zuerst bei Friedrich Silcher gedruckt. Siehe auch Erk/Böme “Schätzchen, ade!”とある。
6. Klusen, *Deutsche Lieder*, vol. 1 (pp. 42, 130) に両方がある。Erk-Friedlaender, *Deutscher Liederschatz* (Frankfurt: Peters, n. d., p. 112) では“Abschied”という題名。
7. *Primary or First Music Reader*, p. 24; *National Music Charts*, 1st ser., p. 26.
8. *Kinderlieder*, p. 56; Klusen, *Deutsche Lieder*, vol. 1, p. 44. *Deutsche Volkslieder* (p. 54) の注は“Worte: H. Hoffmann von Fallersleben, 1798-1874—Weise: Ende 17 Jh. (urspr. Weise zu “Nun so reis ich weg von hier”)”である。“Nu so reis ich weg von hier”の歌詞が *Deutscher Liederschatz* (p. 127) にある。
9. *Song-Garden*, 2nd bk, p. 120.
10. 井上武士編『日本唱歌全集』(音楽之友社, 1972), p. 26.
11. それぞれ『世界音楽全集 16: 外山国彦編・世界唱歌集』(春秋社, 1931), pp. 63-64; 市川都志春ほか編『中学音楽 1』(教育芸術社, 1950), pp. ①の2 [広島大学附属図書館所蔵教科書コレクション]; 清水脩編『150 合唱名曲集』(カワイ楽譜, 1951), p. 77; 門馬直衛編『世界民謡全集第5巻・ドイツ編』(音楽之友社, 1960), pp. 28-36.



12. Klusen, *Deutsche Lieder*, vol. 2, p. 602; *Deutscher Liederschatz*, p. 76.
13. “Life Let Us Cherish” (Boston: P.A. von Hagen & Co., n. d.) など 12 点 [Lester S. Levy Sheet Music Collection].
14. Rev. William Hunter, *The Minstrel of Zion: A Book of Religious Songs* (Philadelphia: Higgins & Perkinpine, 1854), p. 83; *Franklin Square Song Collection*, No. 1, p. 135, No. 2, p. 157 (“See Where the Rising Sun”).
15. “Snatch Fleeting Pleasures” (Boston: P.A. Von Hagen Junior & Cos., n.d.) [Lester S. Levy Sheet Music Collection].
16. 『150 合唱名曲集』 pp. 82-83; 『世界民謡全集第 5 巻・ドイツ編』 pp. 152-54.
17. *National Music Charts*, 2nd ser., p. 26.
18. *Boston School Song Book*, p. 64; *Song-Book of the School-Room*, p. 70.
19. A.S. Hayden, *The Sacred Melodeon* (A.S. Hayden, [1853]), p. 242 [Enos E. Dowling Hymnal Collection, <http://www.lccs.edu/library/hymnals/>].
20. 鈴木米次郎編 *The One Hundred English Songs* (三省堂, [1909], 1910), pp. 43, 82.
21. John Julian, *A Dictionary of Hymnology*, vol. 2, p. 1267.
22. 大塚野百合『賛美歌・聖歌ものがたり』(創元社, 1995), pp. 29-30.
23. *Boston School Song Book*, p. 20; *New Second Music Reader*, p. 132.
24. *New Second Music Reader*, p. 63.
25. Levy Collection に 2 点 (刊行年不明), ピアノ変奏曲 (“My Normandy, with variations” by Charles Grobe, 1856 [American Memory]) もある。
26. *Franklin Square Song Collection*, No. 2 (1884), p. 53; Radcliffe-Whitehead, *Folk-Songs and Other Songs for Children*, pp. 94-95; Barbara Scott, *Folk Songs of France* (New York: Oak Publications, 1966), pp. 46-47.
27. “The Poacher,” “The Poachers,” “My Delight on [in] a Shiny Night” の題名もある。
28. Peter Pears (tenor) and Benjamin Britten (piano), *Folksongs* (London 430 063-2) [CD; recorded 1959] のノーツ。
29. 金田一・安西『日本の唱歌(上)』p. 41。「ロシア民謡」とされる「矢車菊」(“Cornflower” on *All The Best From Russia: 20 Great Favorites*, Madacy 1022364 [CD]) も同じ旋律であり、イギリス曲が元歌であろう。
30. 『音楽取調掛時代文書綴巻 11 諸向往復書綴下』(65/100).
31. John Hullah, ed., *The Song Book* (Philadelphia: T.B. Lippincott/London: Macmillan, 1866), p. 74. 調性・旋律は同一。
32. William Chappell, *Popular Music of the Olden Time*, vol. 2 (London: Cramer, Beale, & Chappell, n.d. [1859]), pp. 732-33.
33. Robert Bell, *Early Ballads Illustrative of History, Traditions, and Customs; and Ballads and Songs of the Peasantry of England* ([1857]; London: George Bell & Sons, 1877), p. 436; Roy Palmer, *Everyman's Book of English Country Songs* (London: Dent, 1979), p. 95.

34. Raymond F. Glover, *The Hymnal 1982 Companion*, vol. IIIA, pp. 159-62.
35. 『洋楽事始』 p. 38.
36. Temperley, *Hymn Tune Index* によると, 1820 年以前に 257 点の賛美歌集に収録された (大半が “Portuguese Hymn”)。
37. “The American Hymn—Poetry & Music by M. Keller” (Boston: Henry Tolman & Co., 1866) [Lester S. Levy Sheet Music Collection].
38. *Franklin Square Song Collection*, No. 4 (1887), pp. 76-77.
39. 『洋楽事始』 p. 32.
40. 久米邦武編・田中彰校注『特命全権大使米欧回覧実記 (一)』(岩波文庫, 1977), pp. 295-98.
41. Albert Christ-Janer et al., *American Hymns Old and New* (New York: Columbia University Press, 1980), vol. 1, p. 290, vol. 2, p. 13.
42. “Programme of Musical Exhibition at Shoheiquan.—July 1st Meiji 15 (1882)” (『音楽取調掛時代文書綴巻 60 取調掛日誌その他』60/140)。
43. *The American Brass Quintet Brass Band: The Yankee Brass Band—Music from Mid-Nineteenth Century America* (New World 80312-2).
44. *Primary or First Music Reader*, p. 39; *National Music Charts*, 1st ser., p. 39.
45. Fuld, *Book of World-Famous Music*, pp. 299-300.
46. “In the Gloaming/by Annie Fortescue Harrison” (New York: Saalfield, R. A., 1878) [American Memory]. 歌集では *Franklin Square Song Collection*, No. 4 (p. 136); *Heart Songs* (pp. 300-01); *Songs That Never Grow Old* (New York etc.: Syndicate Publishing Co., n.d. [1909, 1913], p. 141) など。
47. *Franklin Square Song Collection*, No. 3 (1885), p. 124.
48. John Wall Callcott (1766-1821) で, 著書 *Musical Grammar* (1817; カルコット著・神津元訳『楽典』文部省, 1883) がある。
49. *Boston School Song Book*, pp. 58-59; *Independent Music Reader*, pp. 30-31.
50. Harold Barlow & Sam Morgenstern, eds., *A Dictionary of Opera and Song Themes* (London & Tonbridge: Ernest Benn, 1956), p. 71.
51. *Franklin Square Song Collection*, No. 2, p. 158.
52. Lowell Mason & George J. Webb, *The Boston Glee Book* (Boston: J.H. Wilkins & B.B. Carter, and Jenks and Palmer, [1838], 1843), p. 59.
53. Music Library-University of North Carolina at Chapel Hill (<http://www.lib.unc.edu/music/eam/ns7.htm>) の所蔵版 (New York: Davis & Horn, n.d. [c. 1839]) の書誌データによる。
54. *Franklin Square Song Collection*, No. 3, p. 167.
55. *One Hundred English Songs*, p. 47.
56. *Franklin Square Song Collection*, No. 1, p. 69; Fuld, *Book of World-Famous Music*, pp. 474-75.

57. “Row, Row, Your Boat, or, the Old Log Hut” (Music by R. Sinclair) (New York : Firth, Pond & Co., 1852); “Gently Down the Stream” (Words & Music by Nelson Kneass) (New York : Berry & Gordon, 1854) [Lester S. Levy Collection of Sheet Music].
58. *Deutsche Volkslieder* (Reclam), p. 156 ; Klusen, *Deutsche Lieder*, vol. 2, p. 479.
59. *National Music Charts*, 2nd ser., p. 26 ; *New Second Music Reader*, p. 57.
60. *National Music Charts*, 2nd ser., p. 40 ; *New Second Music Reader*, p. 95.
61. *National Music Charts*, 2nd ser., p. 30 ; *Independent Music Reader*, p. 201.
62. Lowell Mason & G.J. Webb, *The Juvenile Singing School* (Boston : J.H. Wilkins & R.B. Charter, [1837], 1839), pp. 126-27.
63. *New Second Music Reader*, p. 61.
64. *Franklin Square Song Collection*, No. 1, p. 148. 出典は遠藤宏の発見という。
65. *Independent Music Reader*, p. 52.
66. Francis Robinson, ed., *A Selection of Irish Melodies*, Vol. II (Dublin : Robinson and Russell, n.d. [18??], pp. 42-46 [独唱], 47-48 [4 部合唱]) 参照。初版 1813 年。
67. Thérèse Tessier, *The Bard of Erin : A Study of Thomas Moore's Irish Melodies (1808-1834)* (Salzburg, Austria : Institut für Anglistik und Amerikanistik, Universität Salzburg, 1981, p. 175) もこれを出典とする。
68. 系譜は Fuld, *Book of World-Famous Music* (pp. 582-83) を参照。主な関連曲が Aloys Fleischmann, ed., *Sources of Irish Traditional Music c.1600-1855*, 2 vols. (New York : Garland, 1998) にあり, “St. Martin's Church Yard” (c1750-60) がもっとも早い。
69. 門馬直衛編『世界民謡全集第 4 巻・イギリス編 II』(音楽之友社, 1958) , p. 260. Edward Bunting, *The Ancient Music of Ireland* ([1809], 1840 ; rpt. New York : Dover, 2000) に関連曲はない。
70. 『明治期讃美歌・聖歌集成』(大空社, 1996, 第 12 巻 ; 復刻版)。安田寛『唱歌と十字架』(pp. 99-100), 大塚野百合『賛美歌・唱歌ものがたり (2)』(創元社, 2003, pp. 63-68) 参照。
71. *The Boston Handel and Haydn Society Collection of Church Music* (1822), p. 211.
72. それぞれ大和田建樹・奥好義編『明治唱歌第一集』(中央堂, 1888, p. 18), 『明治唱歌第五集』(1889, pp. 48-49) [高知市民図書館近森文庫]。
73. No. 2 (1884), p. 166.
74. “Juanita. A Song of Spain—Words by the Hon. Mrs. Norton/Music Arranged by T. G. May” (Philadelphia : Beck & Lawton, 1855) [Lester S. Levy Collection of Sheet Music].
75. Fuld, *Book of World-Famous Music*, p. 325.
76. 「私を泣かせて」の邦題もある。
77. Derek B. Scott, *The Singing Bourgeois : Songs of the Victorian Drawing Room and Parlour*, 2nd ed. (Aldershot, Hampshire : Ashgate, 2001), p. 66.

78. Allena Luce, ed., *Vamos a Cantar : Songs of Spain and of the Americas* (Boston : D.C. Heath, 1946), pp. 81 (楽譜), 100 (注).
79. 『改正ゆにてりあん唱歌集』(日本ゆにてりあん協会, 1906, 1907) 第 58 番 [近代デジタルライブラリー]。
80. *National Music Charts*, 3rd ser., p. 20 ; *New Third Music Reader*, bk I, p. 34.
81. *Mason's Normal Singer*, p. 73 ; *Independent Music Reader*, p. 216.
82. *Companion to The United Methodist Hymnal*, p. 220 ; Haeussler, *The Story of Our Hymns*, p. 274.
83. Julian, *Dictionary*, vol. 1, p. 364.
84. A. D. Fillmore & Robert Skene, *Fillmore's Christian Psalter* (R. W. Carroll & Co., 1867), p. 292 (曲名 Evening Prayer) など。
85. *Franklin Square Song Collection*, No. 3, p. 62 ; *Heart Songs*, pp. 98-99. また, *Mason's Hymn and Tune Book* (1880) にもあるという (大塚野百合『賛美歌・聖歌ものがたり』創元社, 1995, p. 6)。
86. 1826 年版を含めて Lester S. Levy Collection of Sheet Music には 2 点, American Memory にも 2 点 (1853-73) ある。
87. Julian, *Dictionary*, vol. 1, pp. 86-87 ; 『賛美歌 21 略解』p. 85 ; Wasson, *Hymntune Index*, vol. 3, p. 2134.
88. *Bradbury's Golden Shower of S. S. Melodies* (New York : Ivison, Phinney & Co., c. 1862), p. 39 [American Memory]。
89. *The Harmonia Sacra*, 25th ed. にはある (歌詞 "How blest the righteous when he dies!")。
90. *National Music Charts*, 3rd ser., p. 30.
91. *St. Basil's Hymnal* ([1906]; 32nd ed., Chicago : John P. Daleiden Co., 1925), no. 88.
92. Julian, *Dictionary*, vol. 2, p. 1606.
93. Wasson, *Hymntune Index*, vol. 2, p. 788.
94. *National Music Charts*, 3rd ser., p. 26.
95. 坂西八郎編著『わらべはみたり……「野ばら」88 曲集 一付, ゲーテ「野ばら」考一』(岩崎美術社, 1987)。
96. 江崎公子「『野ばら』このハイカラなるものと日本人」(『ゲーテ「野ばら」考』p. 92)。
97. *National Music Charts*, 3rd ser., p. 28.
98. *New Fourth Music Reader*, p. 267.